はな組だより

臼井幼稚園
令和７年１月29日発行

世間でインフルエンザが流行っていると聞いていますが、まだ臼井幼稚園には流行の兆しがありません。これも保護者の皆さまのご協力のおかげ、そして子ども達が毎日教室で行なっている“あいうべ体操”の効果、園庭遊びの後のお塩リクエスト（ミネラル補給）の効果が見られているのかな、と思います。このまま健康でいてくれたら、何より嬉しいことです。

ご報告です。ご存じの方も既に多いと思いますが、にじ組の担任渡辺由佳が体調不良により、今の予定では３月まで休職することになり、伊東恵理が担任を担っています。

発表会の劇遊びが始まったばかりで、にじ組は担任がお休みとなって、急遽劇を変更しました。本当にありがたいことに、子ども達はとてもしなやかに、その変化に対応してくれました。にじ組の劇は「一休さん」で、異例の速さで最後まで仕上がりました。。恐るべし伊東恵理ですね。。

臼井幼稚園の発表会は、発表会に限らず、臼井幼稚園の保育は担任のペースで教えていくものではないので、最初はなかなか進まないことがあります。今年も例年に違わず、子ども達は１曲終わると、次は？次を演じたい！と先へ先へと進みたがるのですが、表現の深まりを私たちは求めます。場面、場面での演技の定着が欲しいからです。スペースの使い方は二の次で、姿勢、ポーズが各々違うことを求めます。立っている子がいたり、座っている子がいることによって広がりができ、表現に深みが出てくるのです。子ども達の劇と侮るなかれ、劇遊びは芸術です。

年中、年長ともなると、劇中でとても細かいことに気付いて演じている子がいます。水の中に入るのに、袖をまくったり、冷たさを身体で表現したり。お客様に背中を向けて幕の中へ入って行く時も、最後まで背中で演じ続けるように指導しています。素の、“そら組の〇〇くん”が見えないように、伝えています。幼児にそこまで求めるのか？と問われたら、子ども達が応えてくれ、それ以上のものを見せてくれることがこれまでの経験上わかっているので、求めます、と答えます。幼児だから、と大人が手を差し伸べ、助け過ぎると、つまらない子に育ってしまいます。幼稚園の教育は劇遊びでも、一貫して子どもから学ぶ目線で行なっています。

発表会について毎年書いていることを今年もそのまま記載します。是非改めてご一読頂ければ幸いです。

＜臼井幼稚園の発表会＞

１学期、２学期で行なってきた、クリエイティブ・ムーブメント、リズム・バリエーション、描画、壁面製作、造形、音楽、言葉遊び、日直の当番発表まで、すべての保育活動の集大成です。

発表会では、子ども達と担任の弾くピアノのコラボレーション、その相乗効果は感動的です。教員達のピアノの技術は必ずしも上手とは言い難い者もいますが、それぞれの技術に相応しいピアノ曲を選び、５月頃から準備をしています。

＜発表会の作品の作り方＞

① 子ども達と一緒に作る作品

台本もなく、動きや表現を指導者が決め、子ども達に教える活動ではありません。だから「作品作り」と言っています。練習にはなりません。作品のタイトルと構成、選曲は担任が行ないますが、ひとつひとつの動きや台詞などは、年中や年長の場合、ほぼ100％子ども達からの提案とアイディアを取り上げています。満３歳児、年少児は台詞自体が無い、或いはあっても掛け声程度ですが、表現は子ども達がそれぞれの思いを作品の中で表しています。だから、子ども達は自分達で作り上げているという意識を持っています。

② 全員が主役

臼井幼稚園の発表会では、全員が主役です。この時期に「主役がやりたい」という声は聞こえないはずです。

③ 普段の保育が経験になり、その延長線上に発表会があります。

朝の当番発表では自分のことを友達の前で話します。こうした日々の積み重ねが発表会に繋がります。積み重ねとは、練習の繰り返しではありません。新たに生じた問題や、初めて出会う局面で、どうすべきかの能力、「応用力」「生きる力」を育てることです。

〈2ページへ続きます〉

④ 年少での進め方

年少は、リズム・バリエーションを基本に作品作りをします。これはまだまだ表現能力が育っていないためと、年中、年長になって、より深い表現力を身に付けるための基礎能力になるためです。ステップは教師が作り、上体の表現は子ども達から引き出します。

年少の進め方は、子ども達の好きそうな、楽しそうな場面から始めます。子ども達の関心は必ずしも物語の最初ではありません。発表会の経験が無いから、子ども達が楽しめる場面から行なうことで、興味を高める効果が生まれます。また、年少でストーリーを追い過ぎると、子ども達の表現を十分に引き出せないからです。子ども達の好きな場面で、十分に表現を引き出すと、より意欲的に活動に参加してくれます。

園長　志田　裕美子

＜担任から今月のメッセージ＞

冬休みが明け、久々に会ったみんなは
「サンタさんにね～」と、もらったプレゼントのお話を聞かせてくれたり
「飛行機に乗ってじぃじのお家行ったの！」と、楽しかったお話を聞かせてくれましたが
何よりも言われた言葉ランキング１位は、
「早くラピュタやりたーい！」でした。

「冬休み中もラピュタの歌をずっと歌っていました」という声もたくさん聞かせていただき、みんなが好きな劇になり始めていることが何より嬉しいです。

さぁ、そんなみんなの期待に応えるように、劇、劇、劇！の毎日が始まっています。

２学期に教室で作っていた劇をホールで初めて行なった日はプチパニック！
「どこから出るのー？」
「〇〇ちゃんがいなーい！」
と、ホールと教室の使い方の違いに戸惑い、

途中で役替えをするのですが、その配役を決めた後は、どこから違う役になるのか分からず、またまたパニック！
「先生、私何の役？」
「最初の役も変わるんだよね？」
と、始まるまでに時間が掛かっていましたが、今では「最初から始めるよー！」というと、すぐにみんながそれぞれ配役につき、気合いの入ったポーズでスタンバイしてくれて、曲が始まれば、裏にいる子も全員で気持ちをひとつに掛け声をかけてくれています。

ホールで行なった後は教室に帰り、みんなでタブレットで見直して、
「ここはもっとこうやったら？」と意見を出し合い、
「じゃあ、全員でここのポーズ他にどんなのあるかやってみよう！」と動くと、
「先生、見て！〇〇ちゃん、みんなと違うよ！」とお友だちの良いところを見つけて教えてくれたり、「良いの思いついた！」と新しいアイデアを出してくれたりと、もっと良くしたいという意気込みを見せてくれる子がたくさんいて、本当に頼もしいです。

まもなく２月！今はエンディングに向けて、ラストスパートを作っている最中です。
エンディングの曲は、少し長くて難しいのでまだまだ覚えきれてはいませんが、一生懸命歌詞カードを見ながら心を込めて歌う姿に、もう目頭を熱くしている私です。

はな組らしさ全開の、ラピュタをお見せできると思いますので、楽しみにしていてくださいね。

長谷川　裕子